

室見川でのシロウオの保全についての話

福岡支部 福岡県土整備事務所 富松勇太

新規採用で福岡県土に配属されて半年が過ぎたころ。福建会報に投稿する機会を得ましたが、これといった題材が思いつきません。どうしようかと悩みながら過去の投稿記事を見ていたらお題は自由なようなので、大学生の時に取り組んでいた室見川でのシロウオの保全活動に関することについて、書き連ねたいと思います。

〈シロウオについて〉

「そもそもシロウオって何？」という方。よく間違えられますが、シラウオではありませんよ！ シラウオとは別の魚でシロウオはハゼの仲間です。通常は沿岸の浅い海に生息するといわれており、2月から4月のあいだに川を上ってグリ石の下に卵を産んでいきます。食べることができ、室見川でのシロウオの踊り食いは有名です。（私はシロウオ自体食べたことはありませんが）

〈室見川について〉

福岡市西区と早良区の境を流れて博多湾へと注ぐ室見川ですが、県管理の二級河川です。途中多くの堰があり、正常な土砂輸送を妨げているといわれています。そのため、シロウオの産卵場となる汽水域にグリといった礫質土が上流から輸送されず、砂質土のみが供給される状態であるため、シロウオが卵を産む礫が埋もれていく現象が見られます。

〈保全についての話〉

ぶっちゃけた話をしますと、シロウオを守るためだけに保全活動をしていたわけではありません。シロウオを保全すること、もっと大きくいえば生物資源の価値というのは簡潔に述べると食べたり、燃料になったりといった人間の役に立つ経済的な価値や、魚釣りやバードウォッチングといったレクリエーションで使用される価値などに分類されるといわれています。（マクニーリーらの分類【McNeeley et al.,1990】）

ようは「なくなると人間に影響が及ぶ恐れがあるから守ろうぜ！」という話のわけです。（なんと身も蓋もない）

室見川のシロウオ保全活動は、地域のイベントとして企画することで地域コミュニティの構築や、川にふれあい関心をもっていただくといった、シロウオを地域の資源として守っていくねらいがあったと思います。

〈室見川でのシロウオ保全の活動〉

毎年3月に私の母校の福岡大学が主催となって室見川でシロウオの保全活動を行って

ます。内容としては砂で埋もれた礫を重機で掘り起こし、地域の方々と一緒にシロウオが卵を産みそうな場所に礫を置いていくというものです。最後に、地域のイベントとして行っていきたいという趣旨もあり、参加は誰でも **OK** です。これを読んで参加したいという方がいらっしゃれば、ご連絡ください。